

# 新入学生への推薦図書

## 英語文化コミュニケーション学科

推薦教員	書籍名	著者名	出版社名	コメント
杉本 淳子	ことばの宇宙への旅立ち	大津 由紀雄(編)	ひつじ書房	6名の言語の専門家が、「言語に興味をもったきっかけ」や「言語学や音声学の研究の面白さ」を、自身の体験や身近な例をとりあげて、説明してくれている本です。
	不思議の国のアリスを英語で読む	別宮 貞徳	ちくま学芸文庫	<i>Alice's Adventures in Wonderland</i> の、英語表現や言葉遊びの面白さをぜひ味わってみて下さい。
	ジョンブルとアンクルサム：イギリス英語とアメリカ英語	野村 恵造	研究社	イギリス英語とアメリカ英語の特徴や違いについて知りたい人におすすめする本です。短い40のコラムで構成されています。
高橋 実紗子	So Many Chances (The Shell Collector 収録の短編小説)	Anthony Doerr	4th Estate	アンソニー・ドーア著『シェル・コレクター』(岩本正恵訳、新潮社、2003年)収録の短編小説「たくさんのチャンス」を推薦します。「茶色のカーディガン」を着て、「緊張すると息を止める」14歳の主人公が、海辺の街へ引っ越し、すっかり新しい自分に変わることを想像しますが、到着した場所は想像とは違っていて…。はじめての世界に踏み出すことを、そっと後押ししてくれるような作品です。感覚を刺激するような、みごとな自然描写にも注目してみてください。物語には読者を作品世界に引き込む作者の技巧が散りばめられていますが、たとえばこの作品には会話文に通常使われるはずの引用符(日本語では鍵かっこ)がありません。なぜでしょう?
	The Giver	Lois Lowry	HarperCollins	ロイス・ローリー著『ギヴァー 記憶を注ぐ者』(島津やよい訳、新評論、2010年。初訳は掛川恭子訳『ザ・ギバー』講談社、1995年)は、12歳の少年を主人公とした児童小説。彼の平和な日常生活は、一見するとごく普通ですが、読み進めているうちに「おや?」と違和感を覚える表現に出会うでしょう。たとえば、登場人物の眼の描写がありますが、主人公の眼は“pale eyes”、両親の眼は“dark eyes”と表現されています。この物語の舞台は、一体どのような世界なのでしょう? ことばをヒントに、想像してみてください。舞台化・映画化もされていますが、作者のことばの仕掛けを存分に楽しむために、まずは原作を読むことをおすすめします。作品冒頭の献辞も、注目していただきたい要素のひとつです。

中川 僚子	Eric	Shaun Tan	Arthur A. Levine Books	「ボクの家に留学生が来た！」-- ちょっぴり風変わりな留学生エリックとの出会いを描いた、小さな灯りが心にともるような絵本。同じ作者によることばのない絵本 <i>The Arrival</i> (『アライバル』)もお勧め。
	<i>Tales from the Inner City</i>	Shaun Tan	Arthur A. Levine Books	25 の動物たちの話。動物たちの視点からみる世界とは。「対立」に勝ち負けではない、新たな次元の解決策があることを絵が伝えてくれます。岸本佐知子訳『内なる町から来た話』河出書房新社、2020 年も。
	綾瀬はるか「戦争」を聞く	TBS テレビ 「NEWS23」 取材班編	岩波書店	広島出身の女優綾瀬はるかが被爆者の話を聞きます。「あなたがきれいでいることがうれしい」という被爆者の女性のことばは、どういう気持ちで発せられたのでしょうか。75 年前とわたしたちの「今」を繋ぐ本。『綾瀬はるか「戦争」を聞く 2』も。
	夜と霧	ヴィクトール・E・フランクル	みすず書房	心理学者によるナチスの強制収容所の体験記録。戦時の強制収容所という非日常においていかなる日常が形成されていたかが克明に記録されています。生きるとはどういうことを考える指針となる一書。
濱口 壽子	<i>The Man Who Mistook His Wife for a Hat</i>	Oliver Sacks	Picador	
林 龍次郎	英語のジェンダー	神崎高明	開拓社	ジェンダーの問題について、英語の語彙・文法・表現の観点から学べます。
	謎解きの英文法 (シリーズ全 11 卷)	久野 瞳 / 高見 健一	くろしお出版	覚える英文法ではなく、考える英文法を知るために役立ちます。11 卷のうち興味のある巻から読むとよいでしょう。
	日本語と外国語	鈴木 孝夫	岩波書店	言語の機能と構造、言葉と文化との関係について、わかりやすく説明した本です。
	英単語の世界 - 多義語と意味変化から見る	寺澤 盾	中央公論新社	英単語の成り立ち、意味の変化などが解説されており、言語学の基本的な概念にも触ることができます。
	通じない日本語：世代差・地域差からみる言葉の不思議	窪薙 晴夫	平凡社	身近な日本語の例を用いて、音韻論・意味変化・方言などの基本を説明しています。
扶瀬 幹生	TV ディレクターの演出術：物事の魅力を引き出す方法	高橋 弘樹	筑摩書房 (ちくま新書 1040)	番組を「手作り」することの重要さ(楽しさと大変さ)を実践的に面白く解説してくれる本。ビデオ作品に限らず、ひろくプレゼン発表やレポート制作に取り組む際の基本姿勢を学べると思います。

デイビッド・マッケニール	<i>The Mammoth Book of Journalism</i>	Jon E. Lewis	Carroll & Graf Publishers, 2003	A fantastic collection of essays by George Orwell, Dickens, Hemingway, Churchill etc. A good start.
	<i>Journalism: A Beginner's Guide</i>	Sara Niblock	Oneworld Publications, 2012	level: pretty straightforward
	<i>Hiroshima</i>	John Hershey		One of the great masterpieces of modern journalism (and now available online for free!) <a href="https://www.newyorker.com/books/double-take/john-herseys-hiroshima-now-online">https://www.newyorker.com/books/double take/john-herseys-hiroshima-now-online</a> 翻訳ジョン・ハーシー『ヒロシマ＜増補版＞』法政大学出版局、2014年
	<i>Zucked: Waking up to the Facebook Catastrophe</i>	Roger McNamee	Harper Collins, 2019	level: moderate
	<i>Media Theory</i>	Fred Inglis	Basil Blackwell, 1990	翻訳フレッド・イングリス『メディアの理論』情報時代を生きるために』法政大学出版局、1992年
	<i>The Misinformation Age: How False Beliefs Spread</i>	Calin O'Connor, James Owen Weatherall	Yale University Press, 2019	level: challenging
	<i>Media and Politics in Japan</i>	Susan J Pharr and Ellis S Krauss	University of Hawaii Press, 1996	level: challenging
	雨ニモカズレ外国人記者が伝えた東日本大震災	David McNeill, Lucy Birmingham	えにし書房	日本在住の外国人記者二人による迫真的ルポルタージュ。東日本大震災を生き延びた6人の証言者（タイ系アメリカ人英語教師、保育園の調理師、漁師、高校生、桜井勝延 南相馬市長、原発作業員）への震災直後のインタビューを中心に、客観的視点からバランス良くまとめ、2012年アメリカで出版され話題となる。「民」の驚くべき底力と、政府、東京電力を中心とした「官」と大手マスコミの脆弱、醜悪ぶりが、淡々とした筆致によって鮮やかに浮かび上がる。市民グループ有志の翻訳を元に日本語版として改めて問う。

マニー・メイズ	<i>The Elements of Style</i>	William Strunk and E. B. White	ES Books, 2020	
	<i>Out of Our Minds: The Power of Being Creative</i>	Ken Robinson	Capstone, 2017	
	<i>21st Century Skills: Learning For Life in Our Times</i>	Trilling and Fadel	Jossey-Bass, 2012	
	<i>Brave New Digital Classroom: Technology and Foreign Language Learning</i>	Robert J. Blake	Georgetown University Press, 2013	
	<i>The Language Instinct: How the Mind Creates Language</i>	Steve Pinker	Penguin, 2015	
	<i>The Innovator's Toolkit: 50+ Techniques for Predictable and Sustainable</i>	Samuel Silverstein and DeCarlo	Wiley, 2012	
	<i>Organic Growth</i>	Jean-Frédéric Mognetti	Wiley, 2010	

#### 日本語日本文学科

推薦教員	書籍名	著者名	出版社名	コメント
青島 麻子	知ってる古文の知らない魅力	鈴木 健一	講談社現代新書	古代から近世までの作品の繋がりを平易な言葉で解き明かしてくれます。古典文学が過去の作品を踏まえて成り立っていることがよく分かります。
	源氏の女君	清水 好子	壇新書	藤壺・紫の上・宇治の女君に着目することで、『源氏物語』の本質に迫ろうとする書です。五十四帖におよぶ『源氏物語』の展開と神髄を押さえることができます。
岩田 一成	やさしい日本語ってなんだろう	岩田一成	筑摩書房 (ちくまプリマ新書)	国内で外国人に会ったら何語で話しますか？ 実は日本語が一番伝わるのです。ただしやさしく話すならね。言語コミュニケーションに関する諸学問をつまみ食いできます。
	外国語に成功する人、しない人 第二言語習得論への招待	白井 恭弘	岩波書店	第二言語習得研究の成果が非常にコンパクトにまとめてあります。習得という視点から、日本語教育がどうあるべきか考えさせられます。

	ふるさと呼んでもいいですか 6歳で「移民」になった私の物語	ナディ	大月出版	ナディさんは、外見はイラン人ですが日本育ちです。日本社会には様々な人が住んでいます。国を超えて移動する人の気持ちを考えるいい本です。
	ど田舎生まれ、ポケモン GO をつくる	野村 達雄	小学館集英社 プロダクション	ポケモン GO を作ったのは、中国生まれの日本人です。歴史のこと、日本社会のこと、ゲームのことを探るきっかけとなります。
大塚 美保	ヴェネツィアの宿	須賀 敦子	文春文庫	珠玉の随筆集。聖心女子学院専門学校での学生生活が生き生きと描かれた「寄宿学校」の章がとくにおすすめ。
	大聖堂	レイモンド・カーヴァー(作) 村上春樹(訳)	中央公論新社	この本の中の「大聖堂」という作品を薦めます。他者に寄り添う、それはどうすることなのか、深い示唆を含む作品です。
小柳 智一	イソップを知っていますか？	阿刀田 高	新潮文庫	アリとキリギリスなどで有名な『イソップ物語』。この本を読むと、知っているようでいて実は何も知らないことがわかります。ちなみに、アリとキリギリスの話は本物の『イソップ』にはありません。
	ちんちん千鳥のなく声は	山口 仲美	講談社学術文庫	昔の人は現代の我々と鳥の声の聞き方が異なります。それを古典文学作品から丹念に洗い出した本です。ズメは昔「しうしう」と鳴きました。
	文章読本さん江	斎藤 美奈子	ちくま文庫	文豪たちの文章指導を読み解き、そこに見られる悲喜交々を探りながら、思いも寄らない視点を浮かび上がらせる名著です。少し難しいものに挑戦しようと思うみなさん江お薦めします。
	みえるとか みえないとか	ヨシタケシンスケ/伊藤亜紗	アリス館	「ぼくは うちゅうひこうし。いろんなほしの ちょうどをするのが、ぼくのしごとだ。」で始まる絵本です。地球人とは姿形の違ういろいろな宇宙人が登場します。宇宙人と出遭いながら「ぼく」は考えます。みなさんも読み終えた後に、じっくり考えて下さい。現代の社会に生きる上で、とても重要なことが書かれています。
清水 由貴子	日本語という外国語	荒川 洋平	講談社現代新書	日本語を外から眺めることではじめて気づく日本語の魅力や個性、面白さを体験できる1冊です。日本語教員を目指す人はもちろん、そうでない人も楽しめます。
	日本語びいき	清水 由美	中公文庫	日本語教師である筆者が、日本語教室で外国人から受けた「珍」質問に対し、ユーモアたっぷりにわかりやすく答えていきます。普段「あたりまえ」と思っていることに意識を向け、「なぜだろう？」と真剣に考えることの楽しさを教えてくれます。

	言葉図鑑 シリーズ	五味 太郎	偕成社	五味太郎さんの本、子どもの頃はユニークな絵や言葉遊びの面白さにひかれたと思います。大きくなった今、改めて読むと、日本語の構造や表現の豊かさに気づき、「なるほど！」と思うでしょう。おすすめは、第 7 巻「たとえのことば」です。
深沢 了子	奇と妙の 江戸文学事典	長島 弘明編	文学通信	高校までの国語では読む機会の少ない江戸文学ですが、楽しい話がたくさんあります。この事典は、怖い話、ふざけた話、幻想的な話など、さまざまな切り口から江戸文学を紹介する入門書です。教科書で扱えない作品をつまり読みしてみましょう。
	へんちくりん江戸挿絵本	小林 ふみ子	集英社インターナショナル 新書	江戸文学は文章だけでなく挿絵でも遊びます。どう考えたらこうなるの？ という不思議な発想を楽しんでください。

### 哲学科

推薦教員	書籍名	著者名	出版社名	コメント
加藤 和哉	14 歳からの哲学 考えるための教科書	池田 晶子	トランスビュー	哲学は結論ではなく、考え続けるプロセスです。著者の考えに頷いたり、反発したりしながら、自分の考えを育ててほしいと思います。
	新・環境倫理学のすすめ	加藤 尚武	丸善ライブラリー	哲学者として長い間現実の問題に向き合ってきた著者の問題提起を受け止めてほしいと思います。簡単な解決策はありませんが、特にエネルギーを大量消費する社会に生きている私たちには考え続ける責任があります(『環境倫理学のすすめ』とは別の本です)。
加藤 好光	自由と規律	池田 潔	岩波新書	イギリスのパブリックスクールにおける教育を紹介した良書。エピソードを交えながら、学園生活のなかでいかに「紳士」が形成されていくかが描かれている。
	ヘンリー・ライクロフトの私記	ジョージ・ギッシング	岩波文庫	遠い親戚の遺産から年金を支給されるようになつた貧乏作家が田舎のヴィラに引っ越し、季節の移ろいの中で教養あふれる雰囲気を綴つてゆく。「尊厳ある閑暇」への憧憬を培うために。
	『論語』上・下	吉川 幸次郎	朝日新聞社(朝日選書 1001、1002)	東アジア文化圏の古典です。温故知新、座右の書として折に触れて拾い読みをして下さい。
上石 学	美学への招待	佐々木 健一	中央公論新社 (中公新書 1741)	ごく身近かな出来事から問題意識を立ち上げ、学問としての「美学」へと導いてくれる入門書です。

	人はなぜ「美しい」がわかるのか	橋本 治	筑摩書房(ちくま新書 377)	美の体験の奥深さを、著者の独特的な体験を通じて味わってください。
佐藤 紀子	心の底をのぞいたら	なだいなだ	ちくま文庫	精神科医でもあり作家でもあった著者により、「こころ」について学問分野や学術用語にとらわれることなく、日常のことばで丁寧に語られます。大人であれ子どもであれ、だれもが「こころ」の奥底を感じることのできる本です。
	音楽の根源にあるもの	小泉文夫	平凡社	世界各国に出向き、さまざまな楽器と音楽に出会い、味わい、愛した著者の好奇心が読者にそのまま届き、ときどきわくわくしながら読めます。音、リズム、音階をつうじて世界をみる、そんな体験ができる本です。
長野 美香	古事記		講談社(学術文庫)他	日本の神話くらい知らないと恥ずかしいので、一度は読んでおくべき。あけっぴろげでおおらかで、ちょっとエロティック。現代語訳もたくさん出版されているのでとつつきやすいけれど、実は歴史や文学・思想の貴重な資料でもあるという奥深い本。
	注文の多い料理店	宮澤 賢治	新潮社 (新潮文庫) 他	生前はほとんど誰にも理解されなかつた宮澤 賢治ですが、いまや日本文学の宝のひとつ。日々の雑事をちょっと忘れて賢治の世界にただ浸るのも悪くないですが、敬虔な仏教者だった彼にとって「よく生きる」とはなにかを考えることは、日本思想のテーマのひとつでもあります。なお『注文の多い料理店』には、表題作の他いくつかの作品が収められています。
	道ありき	三浦 綾子	新潮社 (新潮文庫)	三部作になっている三浦綾子の自伝の第一部「青春編」です。彼女の自伝でありながら、若い読者に共通する苦悩に寄り添い、生きる希望を与えてくれます。
	街道をゆく	司馬 遼太郎	朝日新聞社 (朝日文庫)	『街道をゆく』は、その土地や国を好きになるヒント満載のシリーズ。司馬は人物描写が上手。歴史上の人物、旅先で出会った人、同行者に対する愛情あるまなざしが文章から滲み出でていて、それらの人物を通して、読者はさらにその土地を好きになってしまふのです。
	日本建築集中講義	藤森照信・ 山口 晃	中公文庫	路上観察学という不思議な学問（趣味！？）で知られる、建築史家にして建築家の藤森 照信氏と、現代的でユニークな日本画家の山口晃氏とが、誰でも知っている日本各地の有名建築を見て歩き、語り合います。笑いながら読み進めるうちに、日本の伝統建築に詳しくなれます。

	高校倫理の教科書			おそらくはだれも通読したことがなく、高校時代に一瞥もしなかったという人もあるでしょう。「哲学科」でなにが勉強できるかを知りたい方は一度眺めてみてください。もちろん教科書はひとつの「点」のようなもので、哲学の守備範囲はその内部と外に無限大に広がっていますが…。
山田 庄太郎	なんでもわかるキリスト教大事典	八木谷 涼子	朝日新聞出版社、2012年	キリスト教に関する基本的な事柄について分かりやすく解説した本です。「事典」という名称がついていますが、1冊の読み物として楽しく読むことができると思います。用語の解説もついていますので、初めてキリスト教に触れる人にとってもおすすめの入門書です。
	図解 哲学 人物 & 用語事典	哲学研究会 (編)	日本文芸社、2015年	歴史上の哲学者たちの主要な思想を、イラスト入りで解説しています。年代順に並んでいるので、哲学史の全体像をつかむのにも便利です。本格的に哲学を学び始める前の第一歩に。
	FACTFULNESS : 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣	ハンス・ロスリングほか	日経BP社、2019年	正しく考えるためには、世界を正しく見ることが不可欠です。しかし、私たちはしばしば様々な思い込みにとらわれ、事実を歪めて見てしまうことがあります。この本では私たちが陥りがちな10種類の思い込みと、それらを克服して正しく世界を見つめるための方法が紹介されています。大学生になる皆さんに読んで欲しい本です。
	外来種は本当に悪者か？ : 新しい野生 THE NEW WORLD	フレッド・ピアス	草思社、2019年	環境保護や自然保護と私たちが言う時、私たちは守られるべき「環境」や「自然」というものをどのように考えているのでしょうか。日ごろ当たり前のように受け入れている言葉の意味を、本書は、「外来種」という普段悪者にされてしまいがちな存在に光をあてることで分かり易く解き明かしてくれます。物事を深く考える第一歩に。
	キリスト教文化の常識	石黒マリーローズ	講談社、1994年	日本における仏教や神道の様に、西欧では長らくキリスト教がその文化的基盤となっていました。キリスト教の影響は、美しい絵画や荘厳な建築に留まりません。政治家たちの演説や日常のちょっとした言い回しに至るまで、生活の中に溶け込んだキリスト教の姿を、本書は著者自身の経験を交えながら、キリスト教にじみのない人たちにも分かるよう丁寧に説明してくれています。少し古い本ではありますが、今でも必見の一書です。

## 史学科

推薦教員	書籍名	著者名	出版社名	コメント
石原 比伊呂	大飢饉、室町社会を襲う！	清水 克行	吉川弘文館 (歴史文化ライブラリー)	中世日本社会における一般民衆の実態が、平易かつ鮮明に描き出されています。飢饉が常態化していた中世の民衆の声に耳を傾けてみてください。
	日本史の一級史料	山本 博文	光文社新書	宮本武蔵や忠臣蔵を素材に、時代劇などで描き出されるイメージと、学問的に確定できる実像のギャップがわかりやすく説明してあります。
	北朝の天皇	石原比伊呂	中央公論新社	一般的にはあまり注目されず、ともすれば「無力な存在だった」とされる中世の朝廷が、足利将軍家との相互協力関係を構築しながら、いかにしたたかに生き抜いていたかを検討した一冊。室町時代の天皇家の“リアル”が伝わります。
印出 忠夫	自分のなかに歴史をよむ	阿部 謹也	ちくま文庫	「眼から鱗が落ちる」ように歴史の見方が変わります。
	ことばと国家	田中 克彦	岩波新書	言葉が支配の道具だということを知っていましたか？
	ジャンヌ・ダルクと百年戦争：時空をこえて語り継がれる乙女	加藤玄	山川出版社	ジャンヌ・ダルクに興味を持つ方は多いと思います。本も沢山出ていますが、率直に言って、著者の思い入れで勝手なことを言っているものが多い印象です。この本は薄いですが、最も公平に読みやすく書かれていると思います。
	『ミラノ霧の風景』 『コルシア書店の仲間たち』 など 5 冊	須賀 敦子	白水 U ブックス	深くイタリアを知りたければ、美しい文章に接したければ、聖心が生んだこの作家の本を手にされよ。
大西 吉之	砂糖の世界史	川北 稔	岩波ジュニア新書	たった一つの商品からグローバルな歴史を語る名著。とても読みやすい。ちなみに『茶の世界史』の角山栄は、この著者の師匠ですね。
	貧乏人の経済学 もういちど 貧困問題を根っこから考える	アビジット・ V・バナジー (著), エステ ル・デュフロ (著), 山形 浩生 (翻訳)	みすず書房	世界の貧困問題に新たな知見をもたらした画期的な本。分かりやすい具体例を挙げながら、開発援助のあり方に一石を投じました。筆者たちは 2019 年にノーベル経済学賞を受賞しています。難しい理論や数式は一切なく、訳もよく、大変読みやすいですよ！
桑名 映子	マリー・アントワネット フランス 革命と対決した王妃	安達正勝	中公新書	オーストリアのハプスブルク家に生まれ、フランス王妃として革命の嵐に立ち向かった女性の生涯。

	エリザベート 美しき皇妃の伝説	ブリギッテ・ハーマン	朝日文庫	ハプスブルク帝国皇帝と結婚しても、自由に生きようとした皇妃の伝記。
	アウシュヴィッツは終わらない これが人間か（改訂完全版）	ブリーモ・レーヴィ	朝日選書	アウシュヴィッツ強制収容所に送られ、奇跡的に生還したイタリアのユダヤ人による体験記。
齋藤 久美子	イスラム社会のヤクザ－歴史を生きる任侠と無頼	佐藤 次高・八尾師誠・清水宏祐・三浦 徹 梨木 香歩	第三書館	イスラム社会の「ヤクザ」に焦点を当てた珍しい社会史。
	村田エフェンディ滞土録	梨木 香歩	角川文庫	第一次世界大戦前のオスマン帝国の都イスタンブルに留学した村田くんの日常を描いた小説。著者の類稀な表現力により、まるでそこにあるかのような気分になれます。
	生活の世界歴史（7） イスラムの陰に	前嶋 信次	河出文庫	10世紀のバグダードとコルドバを舞台にカリフと市井の人々の生活を描写します。
	中勘助隨筆集	渡辺 外喜三郎 (編)	岩波文庫	『銀の匙』で有名な著者の美しくも感情溢れる生々しい文体を味わってみましょう。
芹口 真結子	新書版 性差（ジェンダー）の日本史	「性差の日本史」展示プロジェクト 編	集英社インターナショナル	2020年開催された国立歴史民俗博物館企画展示（企画名は書名と同じ）の図録内容を新書用にまとめたものです。日本社会でジェンダーが持った意味と、その変化の過程を古代～近現代まで時代別に通覧しています。
	江戸日本の転換点－水田の激増は何をもたらしたのか	武井弘	NHK 出版	よく、江戸時代は工コだったと言われます。米を中心とした社会であったこの時代に推進された新田開発が、人間社会と環境に与えた影響を通じて、持続可能ではなかった様相を明らかにしています。
	豪商の金融史－廣岡家文書から解き明かす金融イノベーション	高槻泰郎編	慶應義塾大学出版会	2015年NHK連続テレビ小説「あさが来た」の主人公のモデルになった、廣岡浅子が嫁いだ廣岡五兵衛家の本家・廣岡久右衛門家の史料群を用いて、江戸時代～昭和時代の廣岡家の商売や文化活動などを明らかにした本です。金融史の勉強にもなります。
土田 宏成	茶の世界史	角山 栄	中央公論新社 (中公新書)	身近なモノからこんなにもスケールが大きく、深い歴史が書けるんだ！という驚きを感じてほしいです。
	日本近現代史講義	山内 昌之・細谷雄一	中央公論新社 (中公新書)	日本の近現代史について最新の研究成果にもとづいてわかりやすく書かれています。
	聞き書 緒方貞子回顧録	野林 健・納家 政嗣	岩波書店	聖心女子大の偉大な先輩がどのように学び、どのように生きたかを語ったものです。ぜひ知っておいてもらいたいです。

人間関係学科

推薦教員	書籍名	著者名	出版社名	コメント
石井 洋子	フィールドワークへの挑戦－“実践”人類学入門	菅原 和孝	世界思想社	フィールドワークの面白さを等身大に伝える実践的な著。
	見る、撮る、魅せるアジア・アフリカ！映像人類学の新地平	北村 皆雄(ほか)	新宿書房	異文化での住み込み調査の様子を生き生きと伝える。DVD付き。
	人類学のコモンセンス－文化人類学入門	浜本満・浜本まり子	学術図書出版社	文化人類学という学問の基礎が優しく学べる。
	ガダラの豚1～3	中島 らも	集英社	文化人類学者から知恵を授かり、アフリカを舞台にした抱腹絶倒の小説。
岩原 紘伊	文化人類学の思考法	松村 圭一郎・中川 理・石井 美保編	世界思想社	あたり前を疑うことをキーワードに、親族や贈り物といった文化人類学の古典的なトピックからグローバリゼーションやケアといった現代的なものまでを扱うことで、私たちが現代において複雑化する社会を考えるヒントをくれます。
	SDGs を学ぶ－国際開発・国際協力入門	高柳 彰夫・大橋 正明編	法律文化社	昨今「SDGs」=持続可能な開発目標という用語を耳にする機会が多くなっています。しかし、私たちはその17の開発目標についてどれほど知っているでしょうか。本書はそれぞれの開発目標の背景や内容を学ぶための入門書です。
	観光人類学のフィールドワークツーリズム現場の質的調査入門	市野澤 潤平・東 賢太朗・碇 陽子編	ミネルヴァ書房	時代とともに変化してきた観光は、現代社会を映し出す鏡といわれています。本書を通してレジャーとしてではなく、学問として観光を調査することの面白さを感じてもらえばと思います。
大槻 奈巳	大学生のためのキャリアデザイン入門	岩上 真珠・大槻 奈巳(編)	有斐閣	仕事や就職活動にとどまらず、自分の生き方を考えるきっかけにするための本。大学でどのように学び、人生を設計するかを考えてください。キャリアを考える一助となるワークシートがついています。
	文科省/高校「妊活」教材の嘘	西山 千恵子, 柚植 あづみ(編著)	論創社	2015年8月、文部科学省が、内閣府の協力を得て、高校保健体育の啓発教材『健康な生活を送るために』(平成27年度版)を改訂・発行した。その中で、医学的・科学的知識として高校生や若い人に早い出産を奨励するために改ざんされたデータが使用されていた。なぜ、このようなことが起きたのかを社会学者たちが論じている。

小城 英子	ワークショップ人間関係の心理学	藤本 忠明・東 正訓(編)	ナカニシヤ出版	心理学の中でも、特に人間関係に焦点を置いて書かれたテキストです。人を好きになる心、他人からの影響、集団の中の自分、集団間のコミュニケーションなど、社会心理学を広く学べる内容になっています。心理テストやシミュレーション・ゲームなど、具体的なワークもたくさん盛り込まれていますので、実践しながら学ぶことができます。
	ワークショップ大学生活の心理学	藤本 忠明・東 正訓(編)	ナカニシヤ出版	「ワークショップ人間関係の心理学」のシリーズで、大学生の日常生活を切り口に、身近なところから心理学を学ぶテキストです。本書は、Ⅲ部構成になっていて、Ⅰ部では学問を学ぶ上で必要となるスタディ・スキルの獲得や学習意欲、Ⅱ部では自分自身の理解やアイデンティティの確立、Ⅲ部では自分を取り巻く人間関係や、大学生活にひそむさまざまなリスクについて書かれています。
	不思議現象 なぜ信じるのかこころの科学入門	菊池 聰・谷口 高士・宮元 博章(編著)	北大路書房	UFO や占い、超能力などを総称して「不思議現象」と呼びます。人為を超えた力や現象は、もしかしたら本当に存在するのかもしれません、大半は、何でもないことを、不思議現象を信じようとする私たちの心が不思議に見せているだけなのです。本書では、不思議現象を信じる心を、心理学の観点から解き明かしています。心理学の入門書としてもおすすめです。
	テレビが構築する集合的記憶－番組・アイドルの共有 (テレビという記憶テレビ視聴の社会史)	小城英子・萩原 滋 (編)	新曜社	映画からテレビ、テレビから SNS へと、メディアの変遷とともに私たちのコミュニケーションのあり方も変わってきました。リビングでリアルタイムのテレビ視聴こそ減っていますが、コンテンツ（番組）自体はさまざまなデバイスで消費されており、実は今でもテレビはマス・メディアの中心にいます。
	シリーズ心理学と仕事 10	社会心理学 太田 信夫（監修）小城英子・大坊郁夫編)	北大路書房	心理学がどのように仕事に結びつくのか？心理学と仕事というと、真っ先にカウンセラーが思い浮かぶかもしれません、心理学という学問は日常生活のあらゆる場面で活用でき、いろいろな仕事と関わっています。
	絶対に役立つ心理学 日常の中の「あるある」と「なるほど」を探す	藤田哲也(監修) 小城英子・村井 潤一郎 (編著)	ミネルヴァ書房	初心者向けに書かれた社会心理学の入門書です。身近な事例と理論とを結びつけて、高校生でも読みやすいと思います。

	社会に切りこむ心理学 データ化が照らし出す社会現象	小城英子・高橋尚也・宇井美代子・畠中美穂（編）	サイエンス社	「第3章 ファン心理を科学する」を執筆しています。ファン心理研究の最前線をまとめていますので、関心のある方はまずここから始めてみましょう。
菅原 健介	羞恥心はどこへ消えた？	菅原 健介	光文社新書	

### 国際交流学科

推薦教員	書籍名	著者名	出版社名	コメント
岡橋 純子	大人になるためのリベラルアーツ	石井 洋二郎, 藤垣 裕子	東京大学出版会	
	女の一生（一部、二部）	遠藤 周作	新潮文庫	
	風土－人間学的考察	和辻 哲郎	岩波文庫	
	古寺巡礼	和辻 哲郎	岩波文庫	
	イタリア紀行（上、中、下）	ゲーテ	岩波文庫	
	ハワイ紀行 完全版	池澤 夏樹	新潮文庫	
	<i>Portrait of a Turkish Family</i>	Orga, Irfan	Eland Publishing (new edition), 2002	
	<i>Ancient Futures - Learning from Ladakh</i>	Noberg-Hodge, Helena	Sierra Club Books, 1991	
	<i>Why the West Rules - For Now</i>	Morris, Ian	Farrar Straus and Giroux, 2010	
	せかいいちうつくしいばくの村（絵本）	小林 豊	ポプラ社	
	日本外交の論点	佐藤史郎、齊藤孝祐、川名晋史、上野友也（編）	法律文化社 2018年	
	日本の古代国家誕生 飛鳥・藤原の宮都を世界遺産に	松浦 晃一郎、西村 幸夫、岩槻 邦男、五十嵐 敬一（編）	ブックエンド、2019年	

	信仰の対象と芸術の源 泉世界遺産富士山の 魅力を生かす	松浦 晃一郎、 西村幸夫、岩 槻 邦男、五十 嵐 敬一（編）	ブックエンド、 2018年	
	回遊型巡礼の道四国 遍路を世界遺産に	松浦 晃一郎、 西村 幸夫、岩 槻 邦男、五十 嵐 敬一（編）	ブックエンド、 2017年	
奥切 恵	10代から知つておきた い あなたを閉じこめる 「ずるい言葉」	森山 至貴	WAVE 出版	
	10代から知つておきた い 女性を閉じこめる 「ずるい言葉」	森山 至貴	WAVE 出版	
	From the Japanese	Paul Rossiter	Isobar Press,2013	
	World Without	Paul Rossiter	Isobar Press,2015	
	20ステップで学ぶ 日本 人だからこそできる英語 プレゼンテーション	藤尾 美佐	DHC	
久保田 知敏	本と中国と日本人と	高島 俊男	筑摩書房	中国に関する図書の案内。著者は週刊文春のコラム「お言葉ですが」で知られる中国文学研究者。
	北朝鮮に消えた友と私の物語	萩原 遼	文春文庫	戦後日本の趨勢を決定した朝鮮戦争から現在の北朝鮮問題まで、朝鮮問題と深く関わってきた著者が、自らの体験を軸に、同時代を生きた一人の人間として書き記した自叙伝的な解説書。
	放送禁止歌	森 達也	光文社(知恵 の森文庫)	日本マスメディアの体質を知るために絶好の読み物。将来マスコミ等言論の場で活躍したい人にはお薦めの一冊。
	訓詁学講義 中国古典文 献の読み方(中国古典文献 学・基礎編 1)	倪 其心(著) 橋本 秀美、鈴木 かおり(訳)	アルヒーフ/ すずさわ書店	中国古典研究のための本格的入門書。
	校勘学講義 中国古典文献の読み方(中国古典文献学・基礎編 2)	洪 誠(著) 橋本 秀美、森賀 一恵 (訳)	アルヒーフ/ すずさわ書店	
	父が子に語る日本史	小島 肇	トランスピュー	♪闘う君の歌を～闘わない奴らが笑うだろう、 冷たい水の中を～ふるえながらのぼってゆけ。
	台湾の政治	若林 正丈	東京大学出版会	台湾のことが知りたくなった人はこの専門書に挑戦。

佐々木 亮	大学教育について	J.S.ミル（竹内 一誠訳）	岩波文庫	著名や政治哲学者が、大学教育が拠り所とすべき原点や理念を説いたものです。著者の視点から、大学で教えられるべき科目やその理由・意義が述べられており、これから大学生になろうとしている方や大学で学ぶ専門について考えている方にも、ご一読頂きたい 1 冊です。
	差別は思いやりでは解決しない－ジェンダー・LGBTQ から考える	神谷 悠一	集英社新書	現在、「ジェンダー平等」が SDGs の目標の 1 つに掲げられ、LGBTQ への理解の必要性が社会的にも認知されてきています。差別の問題は、「思いやり」のような個々人の良識の問題として捉えられることが少なくありませんが、現代における差別問題は、社会構造や人々の価値観にも深く関わるものであり、「思いやり」に還元しては解決できません。本書は、「思いやり」から脱し、社会制度の問題として差別を考えるための入門書です。
	個人と国家－今なぜ立憲主義か	樋口 陽一	集英社新書	憲法学者の視点から（外国の憲法との比較や憲法の背後にある歴史・思想も視野に入れて）、国家と憲法の関係を再検討し、個人がその存在をありのままに尊重される社会のあり方を考えるための 1 冊です。
	民主主義の本質と価値	ハンス・ケルゼン（長尾龍一・植田俊太郎訳）	岩波文庫	第二次世界大戦直前のファシズムが台頭し始めたヨーロッパで、民主主義の危機を目の当たりにした著者が、民主主義の意義を説いたものです。単なる多数決（多数派の專制）ではなく、少数者を社会に包摂することが民主主義の本質的価値であり、自由を最大化する方法であるという主張は、現代日本にも重要な教訓を与えてくれます。
	レイシズムとは何か	梁英聖	ちくま新書	「日本人に人種差別などあるのか」、この問い合わせに実は差別が埋め込まれています。人種を表に出さないことによって生み出される人種差別の構造を通して、私たちの身近にありながらなかなか気付かない「隠された差別」に気付くための視点を与えてくれます。
	キヨミズ准教授の法学入門	木村 草太	星海社	図表なども多く気軽に読める法学の入門書です。法学そのものについての説明にとどまらず、政治学・経済学・社会学などと対比させた箇所も多く、「社会」に関わる問題をこれから大学で学ぼうとする方が、どのような学問を専攻すべきか考えるうえでも有益な 1 冊です。
古川 純子	あなたの T シャツはどこから来たのか？	プエトラ・リボリ	東洋経済新報社	T シャツが解き明かすグローバリゼーションの歴史としきみ。

	1 冊で分るグローバリゼーション	マンフレッド・B・スティーガー	岩波書店	グローバリゼーションをコンパクトに解説。
	データ資本主義	野口 悠紀雄	NTT 出版	ビッグデータがもたらす新しい経済のしくみ。
	予想通りに不合理	ダン・アリエリー —	ハヤカワ・ノン フィクション文 庫	とにかくおもしろい行動経済学の本。
	国家と移民	鳥井 一平	集英社新書	日本の事実上の移民政策、技能実習制度に問題はないか。
	百年の孤独	ガルシア・マル ケス	新潮社	ラテンアメリカを知るための最高傑作。ノーベル文学賞受賞作家。
	多文化世界	青木 保	岩波新書	宗教・民族問題の先鋭化と、グローバリゼーションの一元化の中で直面する現実と課題。
	異文化理解力	エリン・メイヤ —	英治出版	ビジネスシーンにおける文化の違いから生じる問題を事例に基づき分析し、コミュニケーションパターンを類型化した。
	アルケミスト	パウロ・コエ リョ	角川文庫	自分を待つという宝を探しに旅に出た少年がみつけた人生の宝とは。
	わたしたちが正しい場所 に花は咲かない	アモス・オズ	大月書店	イスラエル人の著者が語る、共生の作法。
松浦 聖子	リベラルアーツの法学	松田 浩道	東京大学出 版会	リベラルアーツとして法を学ぶ意義を、初学者にも分かりやすく学際的に説いてくれる本です。聖心で自分の学びをデザインする際に、ぜひ読んで下さい。
	〈知〉の取扱説明書	仲正 昌樹	作品社	その場限りの面白さ・耳ざわりの良いストーリーに流されない・だまされない本物の「知」を獲得するため、ぜひ一度は読んで欲しい1冊です。
	奇跡の社会科学	中野 剛志	PHP 新書	筆者曰く「社会科学の古典を読んでおけば、政治や経済において、どんなことをやつたらどういう結果になるのか、およそ見えてくるようになります。」本書で扱われている古典の名著は、大学での学びの基礎・土台となるものもあり、特に国際交流学科へ進みたい方は必読の1冊です。
	市民社会とは何か	植村 邦彦	平凡社新書	私たちが「民主的な社会」「自由な社会」と認識する前提には「市民社会」というキー概念があります。グローバル化の進行、格差社会をめぐる様々な課題と向き合う際に、「市民とは」「社会とは」を俯瞰的に学びたい方にお勧めする1冊です。

	消費化社会	博報堂生活総合研究所	集英社インターナショナル新書	社会において価値観が変化する状況を、年齢による違いが小さくなる現象=「消費化」の視点で読み解く本書は、社会の変化をデータに基づいて理解・分析する入門書として手に取りやすい1冊です。
	AIの時代と法	小塙 荘一郎	岩波新書	AIの利用が進むことにより、様々な変化や影響が「予測」されていますが、本書は根本的かつ具体的な変化=「世界の変革」を論じています。AIは理系の分野で、法は法の専門家に任せておけば良いの話だから、と読まず嫌いにならず、「物ごとの見方が根本的に変わる」パラダイムシフトの話だと思って手に取ってみてください。
	家族と法	二宮 周平	岩波新書	婚姻件数の減少、離婚の日常化、少子高齢化の進行、生殖医療の進歩で、家族のあり方は変化していますが、法も変化を求められています。時代の変化をどのように受け止め、どのような家族の法を再構築すべきなのか、家族法の第一人者である筆者と一緒に考えてみましょう。
	損する結婚 儲かる離婚	藤沢数希	新潮新書	結婚という法制度を、経済的リスクの観点から読み解き分析するなどの衝撃的な内容を含むが、現行の法律（民法の家族法）が時代遅れになっているとの指摘、婚姻難・少子化を踏まえ新しい家族のあり方を提言する、ショック療法的な1冊。

### 心理学科

推薦教員	書籍名	著者名	出版社名	コメント
岸本 健	僕には鳥の言葉がわかる	鈴木俊貴	小学館	聖心女子大学の構内を歩いていると、いろいろな種類の鳥たちのさえずりを耳にすることができます。きれいな鳴き声なのですが、実は鳥たちはあなたのことを話しているのかもしれません。日本語、外国語に加えて、鳥の言葉も学んでみませんか。動物を対象とする心理学の素晴らしい入門書です。
	抱え込まない子育て 発達行動学から見る親子の葛藤	根ヶ山光一	岩波新書	皆さんは「親子」と聞くどのようなイメージを抱かれるでしょうか。複雑な感情の伴う「親子」の結びつきは、私たちに勇気やパワーだけでなく、苦しみや葛藤をもたらします。この複雑な感情の根源には何があるのでしょうか。これを知ることで、親子の苦しみや葛藤を少し軽くできるかもしれません。サルとヒトの「親子」「子育て」を長年、研究をしてきた著者の総まとめの1冊です。

	バッタを倒しにアフリカへ	前野 ウルド 浩太郎	光文社新書	単身アフリカに乗り込むバッタ研究者のフィールドワーク譚。「世界一受けたい授業」にも出演の異色研究者による冒険と希望の実話。ぐいぐいと読ませます。
	仕掛け学－人を動かすアイデアのつくり方	松村 真宏	東洋経済新報社	「あ、この仕掛け作った人、天才だわ」などのページを見てもため息が出ます。バスケットゴールをゴミ箱の上につけたら、誰だってゴミを丸めてシートしたくなりますよね。でも、仕掛けを「科学の学問としての仕掛け学」に昇華させるのが作者の本当のすごいところ。読み始めたら止まらない仕掛けだらけの本。
神前 裕子	人口の心理学へ－少子高齢社会の命と心－	柏木 恵子・ 高橋 恵子(編)	ちとせプレス	
	素足の心理療法 －始まりの本－	霜山 徳爾	みすず書房	
永井 淳一	山びこ学校	無着 成恭(編)	岩波文庫(青)	学ぶとは、先生から新しい知識を教わるだけではないということがよく分かります。大学では特にそうです。
	君たちはどう生きるか	吉野 源三郎	岩波文庫(青)	他者とのかかわりの中で、いかに良く生きていくかを考える、一つのきっかけになる読み物であると思います。
平井 美佳	新・カウンセリングの話	平木 典子	朝日新聞出版社	
	子育ての知恵：幼児のための心理学	高橋 恵子	岩波新書	
	教育は遺伝に勝てるか？	安藤 寿康	朝日新書	
向井 隆代	いつもそばにいるから	バーバラ・パーク (ないとふみこ 訳)	求龍堂	アメリカの児童向けの図書 The graduation of Jake Moon の日本語訳です。アルツハイマーを発症した祖父の介護を手伝う小学校高学年の男の子の物語。訳本もいいですが、高学年以上向けなので英語も読みやすいです。
	メディア・バイアス	松永 和紀	光文社新書	メディアによって私たちに伝えられる科学情報の歪みや限界を指摘する書。論理的思考、分析的視点を日常生活に活かし、自主的に判断する意義を伝えてくれます。

教育学科 教育学専攻・初等教育学専攻

推薦教員	書籍名	著者名	出版社名	コメント
植田 誠治	人間この未知なるもの	アレキシス・カレル	三笠書房	人間とは何か、ノーベル賞を受けた科学者が、科学を越えた先にある人間の不思議をおしてくれる書。1935年に書かれたものであるが、まったく古さを感じさせない。
	いのちの文化人類学	波平 恵美子	新潮選書	さまざまな文化における生命観を比較しながら、いのちについて考える。また、それを通して尊厳死、臓器移植などといった今日のゆらぐ生命観を幅広い視点で考察できる書。
	こころの旅	神谷 美恵子	みすず書房	ひとの生涯を、こころの発達を中心にしていねいにたどる。新しい資料として収録された育児日記にみられる生き生きとした記述内容と方法も参考になる書。
	健康不安社会を生きる	飯島 裕一(編著)	岩波新書	現代の健康ブームをいろいろな視点から検討しながら、健康とは何かを問い合わせている。識者へのインバビュー形式で書かれていて、読みやすい入門の書。
	科学者という仕事-独創性はどのように生まれるか	酒井 邦嘉	中公新書	科学者たちの仕事や言葉を通して、科学とは何か、知とは何かを考えさせてくれる。できれば大学入学前に、少なくとも新入生の間に読んでおくとよいと思われる入門書。
	臨床の知とは何か	中村 雄二郎	岩波新書	近代の科学、近代の知への問題提起とともに、現実的課題解決のためのヒントを与えてくれる。
	オフサイドはなぜ反則か	中村 敏雄	平凡社ライブラリー	「オフサイド」というフットボールの反則、そのルール誕生の背景には、イングランドの歴史や心性が深くかかわっている。知的好奇心を満たすことの楽しさを味あわせてくれる。
小山 裕樹	メノン	プラトン著、藤沢 令夫訳	岩波文庫、1994年	
	啓蒙とは何か/他四編	カント	岩波文庫、1974年	
	大学とは何か	吉見 俊哉	岩波新書、2011年	
	サヨナラ、学校化社会	上野 千鶴子	ちくま文庫、2017年	

	下流志向：学ばない子どもたち、働く若者たち	内田 樹	講談社文庫、2009年	
	ヒューマニティーズ：教育学	広田 照幸	岩波書店、2009年	
	「宿命」を生きる若者たち：格差と社会をつなぐもの	土井 隆義	岩波ブックレット、2019年	
	つながりを煽られる子どもたち：ネット依存といじめ問題を考える	土井 隆義	岩波ブックレット、2014年	
木下 ひさし	浦上の旅人たち	今西 祐行	岩波少年文庫	長崎浦上天主堂。この地で信仰を守った人々の明治から昭和に至る旅の物語。
	先生はえらい	内田 樹	ちくまプリマ－新書	先生はえらい。理屈抜きにえらい。目から鱗の内田教育論。
	堤末果のショック・ドクトリン－政府のやりたい放題から身を守る方法	堤末果	幻冬舎新書	有権者として政治に目を向けよう
	社会を知るために	筒井淳也	ちくまプリマ－新書	今私たちが生きる社会を知ろう
	ドリーム・ハラスメント「夢」で若者を追い詰める大人たち	高部大問	イースト新書	こんなハラスメントもある。聞こえの良い言葉にだまされないために
	「自分」らしさと日本語	中村桃子	ちくまプリマ－新書	ことばと自分と社会の関係を考えなおそう
齊藤 萌木	人はいかに学ぶか	稻垣 佳世子・波多野 誠余夫	中公新書、1989年	「学ぶ」ということは、人が生きるうえでもっとも基本的な活動の1つです。しかし、人がどのようなときに学び始めるのか、学びをとおしてものごとの理解が深まったり視野が広がったりするプロセスとはどのようなものなのか、そうしたことは意外と知られていません。この本は「学びは人の意欲から自然に生まれる活動なのか」「学びは、不快を取り去るためなどの必要に迫られてやむを得ず生まれる活動なのか」という根本的な問を出発点として、学校や塾などの教育の場を超えて人の学ぶ場面に広く目を向けながら、学ぶとはどういうことをわかりやすく探究しています。教えること/学ぶことを見直す最良の入門書の1つです。

	先生ってなにする人？	守屋 慶子・高橋 通子	金子書房、2007年	教育は何のために、誰のためにあるのか、子どもたちの発達にとって本当に意味があるものなのか。これまで教育を受けてきて、そんな疑問が湧いたことも少なくないと思います。この本は、ある小学校の1つの学級の6年間の実践の丁寧な観察から得た豊かな学びの事実をもとに、発達心理学の視点からそんな問を総合的に考察した1冊です。人を育てる教育とはどのようなものかについての基本的なイメージを持つ助けになり、教職を志す人だけでなく、市民生活を豊かにするためにも大いに役立つと思います。
	教育の今とこれからを読み解く57の視点	多田高志（編集代表）	教育出版、2016年	こちらは、教育学を学んだり、教員資格の取得を目指す人におすすめの1冊です。加速度的に変化する学校教育の現状を理解し、今後の指針を得るための57の話題について、教育/学習に関する様々な分野の現役の専門家が、A5判4ページ程度のわかりやすい解説を提供すると共に、一步先の深い理解に役立つ参考文献を紹介しています。取り上げている話題も、「いじめ」「子どもの貧困」といった子ども・若者を巡る課題、「教員評価」「学校統廃合」といった制度に関する話題、「シティズンシップ教育」「ESD」といったカリキュラムの話題、「ICT活用」や「協同学習」など教授学習方法に関するものまで多岐にわたります。教育学の気軽な辞書としても活用できそうです。
澤野 由紀子	古代への情熱—シュリーマン自伝	ハインリヒ シュリーマン(著), H. Schliemann(原著), 村田 数之 亮(翻訳)	岩波書店、1976年	幼い頃に読んだ本のなかの一枚の挿絵からトロイア遺跡発掘を夢見て、実現に向けて様々な努力をした19世紀ドイツの実業家の伝記です。夢の実現のために、12ヵ国語をどんどん習得していくシュリーマンの外国語の学び方にも注目してみてください
	コルチャック先生	近藤 康子(著)	岩波ジュニア新書、岩波書店、1995年	ユダヤ系ポーランド人の小児科医で児童文学者、教育者でもあったヤーヌシュ・コルチャックの伝記。子どもの権利にもとづく理想を持ち続け、ナチス・ドイツ統治下のワルシャワのゲットーで孤児院を経営。コルチャックの思想は「子どもの権利条約」にも反映されています。
	窓ぎわのトトちゃん	黒柳 徹子(著)	講談社文庫、講談社、1984年	著者が実際に通っていたトモエ学園のユニークな教育実践から、現代の学校教育の抱える問題について考えてみましょう。
杉原 真晃	「教養」とは何か	阿部 謙也	講談社	文字通り、「教養」とは何かを問う著書。大学生になり、「教養」を身につけていくにあたり、参考になる。

	教育の職業的意義—若者、学校、社会をつなぐ	本田 由紀	筑摩書房	「職業」という観点から学校教育の在り方を考えさせられる著書。
	教育と平等—大衆教育社会はいかに生成したか	苅谷 剛彦	中央公論新社	戦後の学校教育における「平等」のとらえられ方を知り、教育の在り方を再考するに適した著書。
	「いじめ」の構造	渡部 昇一, 土居 健郎	PHP 研究所	現代的な「いじめ」の特徴を分析した著書。教育やケアのあり方を問い合わせ直す機会をもたらす著書。
	里山資本主義 日本経済は「安心の原理」で動く	藻谷 浩介, NHK 広島取材班	角川書店	グローバル化が進む資本主義経済社会の抱える課題を克服する、新たな生き方・経済のあり方を発見できる著書。
	社会的ひきこもり—終わらない思春期	斎藤 環	PHP 研究所 (PHP 新書)	「ひきこもり」が単なる個人的な問題ではなく、社会的システムとしての問題であることが理解でき、ひきこもりに対する考え方が変容する著書。
	友だち地獄—「空気を読む」世代のサバイバル	土井 隆義	筑摩書房	友だちと仲良くし続けるために「空気を読む」ことに神経を使いすぎ、疲弊していく若者の様相を分析した著書。
	貧困の克服—アジア発展の鍵は何か	アマルティア・セン	集英社	貧困という問題に向かうための社会のあり方を問う著書。ノーベル経済学賞受賞者のセン氏の入門書。
永田 佳之	現代社会の理論	見田 宗介	岩波新書	環境問題や南北問題、情報化社会などを読み解くセンスを磨く恰好の一冊。同著者による『社会学入門』もお薦め。
	「聴く」ことの力：臨床哲学試論	鷺田 清一	TBS ブリタニカ	人は聴くことによって深い所で相手を支え、聴くことによって自分自身も変る。著者のこうした声と植田正治による写真とのコラボが見事な作品。
	医は国境を越えて	中村 哲	石風社	国際協力とは何か。アフガニスタンの地で井戸を掘り続ける日本人医師の奮闘記であり、「相互扶助の世紀」への希望の書。
	コミュニティを問い合わせなおす	広井 良典	ちくま新書	新しい時代の教育を構想するには、環境と福祉という視座は欠かせない。現代のコミュニティの問題を根幹から問い合わせし、地球倫理の可能性も示した大佛次郎論壇賞受賞作品。
水島 尚喜	ヒトはなぜ絵を描くのか	中原 佑介(編著)	フィルムアート社	「人はなぜ絵を描くのだろうか？」という疑問に、学際的にアプローチする本書は、「美術・図工」という教科の必要性を考えることにも役立つ。